

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

2026.3.26

堺市立若松台学校  
校長 古橋 章秀

## 中学校区におけるめざす子ども像

- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする生徒
- ・実際の社会や生活で生きて働く知識・技能を備えた生徒
- ・自ら学び続け未知の状況にも対応できる生徒

## 令和7年度 重点目標

急激に変化する時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育み、子どもたちの可能性を引き出すため、これからの堺の学びとして、「令和の日本型学校教育」である多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。【学校組織としての重点目標】①主体的・協働的な学びを通して「総合的な学力」を育む学校。②多様性を認め、一人ひとりの個性を尊重する学校。③子どもの発達段階に応じて一貫した教育を行う学校。④チーム力を発揮し、家庭・地域・関係機関とともに子どもを育てる学校。⑤いじめの未然防止・早期発見・早期対応に真摯に取り組む、早期解決を図る学校。

## 「確かな学び」の現状

令和7年度、生徒においては、前年度に引き続き落ち着いた態度で授業に臨む姿勢が見られた。教員は、生徒が自ら学びを進める姿を想像し、なぜ学ぶのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのかを生徒自身が考えられるように、生徒が自分に合った学習材や学習方法、学習時間などを選択できるように配慮している。また、少人数授業においては、生徒の学習状況に応じて効果的に実施することで、個に応じたきめ細やかな指導に取り組んでいる。令和8年度においても引き続き、生徒の落ち着いた授業態度を継続し、教員においては、生徒の実態に応じた創意工夫した指導を行っていきたい。

## 「豊かな心・健やかな体」の現状

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の気持ちが変わる人間になりたい」、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校のルールを守って、責任ある行動をとっている」という肯定回答はいずれも全校生徒の大半に達し、本校の様子をそのまま表しているような結果となった。加えて、学年が上がるにつれ、その場の状況を判断できるようになり、上級生としての意識の高まりが見られた。近年、全国的に猛暑日が多く見られるようになっており、学校行事においては、水分補給などの熱中症対策の意識を高めている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	基礎力の定着	基本的な知識・技能の定着および教科学力の向上	・3年生数学、1年生英語を年間通じて少人数授業。 ・形式的ではない、活動内容や方法を変えたりする反復。また、つまづきの要因を分析し、個に応じた指導や支援を行う。	定期テスト等の得点推移	定期テスト等 少人数授業 アンケート	年度末	◎ 生徒の疑問点や苦手分野を早期に見出し、適時に指導を調整している。また、生徒が質問しやすく、教員との対話が活発化している。	A	英数共に予定の習熟度別授業実施割合を大きく上回った。テストの度数分布からは一定の成果は見られた。堺市のリーディングDX指定校として文科省に事業報告済。教職員は、デジタル採点を開始しており令和7年度から本格実施。	A	習熟度別授業の継続実施については評価できる。校内を見学させてもらったが、生徒が積極的にタブレットを使用しており、従前の様子との違いを見ることができた。
			●タブレット端末の活用をはじめ、それぞれの授業において、教材や教え方を工夫する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価	生徒用学校 アンケート	年度末	◎ インフルエンサーの指導を仰ぎ、教員のICT利用頻度がやや増し、教科による工夫が進んでいる。	A		A	デジタル採点の実施についても、働き方改革の視点から評価している。
	授業改善	生徒が主体的に取り組む授業づくり	●少人数授業をはじめ、学びのコンパスに基づき、小中9年間を見通した授業づくりを行う	80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	CBT調査	年度末	○ 「学びのコンパス」を意識した授業づくりを目指している。また、学校群により校区内で共通認識のもと授業づくりをしている。	A	講義型の授業から、対話型・伴走型の授業へ質の転換が図られつつある。適宜、生徒から教員へ質問できる風通しの良い状況であり、今後も継続したい。学校群を通して9年間を見通した教育環境が少しずつ構築されつつある。	A	生徒自身が自ら課題を見つけ、解決のプロセスを見つける授業設計となっている点を評価している。また、生徒が、主体的に学びの意義や目的を見つける仕組みとなっている授業形態を今後も継続して欲しい。
			●主体的、対話的で深い学びにつながる授業として、問題解決的学習やグループ活動に取り組む。	研修の進捗状況	職員用学校 アンケート	年度末	○ グループ活動を推進し、対話的授業展開を実施している。	A		A	
豊かな心・健やかな体	秩序と活力ある学びの場づくり	自己肯定感の向上および将来設計と向上心の育成	●挨拶や返事などの基本的な生活習慣を励行する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	生徒用学校 アンケート  CBT調査	年度末	◎ 朝の登校指導を始め、各学年の職員が習慣化に取り組みしている。	A	職員による朝の登校指導により、「おはようございます」「さようなら」の挨拶が大きな声で行われるようになった、雰囲気は良い。生徒会が生徒の意見を吸い上げ、東京の中学校と校則の変更を協議するなど委員会活動は活発である。	A	遠く離れた他中学校とICT機材によって繋がりが、校則についてルールメイキングするなど、今までになかった工夫点を評価している。生徒は登下校時に気持ちよく挨拶できており、学校が、良い雰囲気であることが見てとれる。
			・委員会活動等を中心に生徒が活躍できる場を増やす。			年度末	○ 毎月、委員会活動を実施している。	A			
			・学年ごとに生徒の成長に合わせたキャリア教育推進。			年度末	○ 1・3年で進路学活、2年生は、10月に希望先の職業体験を実行済。	A			
	道徳性の育成	いじめのない明るく元気で仲の良い人間関係の育成	●生徒理解、生徒間交流の見守りとお互いの人間関係育成を目的に、教員と生徒との接点を増やし、いじめのない明るい学校づくりに取り組む。		CBT調査	年度末	◎ アンケートや教育相談を実施し、生徒からの聞き取りをしている。講演会などで啓発を進めている。	A	定期的に各クラスが教育相談を実施できた。生徒の悩みを個別にヒアリングし保護者と連携しながら悩みの共有・解消に努めた。道徳では複数教員が交代で受け持つなど工夫し、生徒との接点を増やすことができた。	A	担任や保護者、スクールカウンセラー、自治体が連携し、生徒が安心して生活の出来る環境を作っている点を評価している。今後も、定期的な教育相談を実施し、悩みの共有・解消に努めて欲しい。
・道徳教育を着実に積み重ね、命の大切さや人権の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会を作る。			年度末			◎ 教職員全員がローテーションし、道徳科目の授業を複数の切り口で展開中。	A				
独自の取組	地域・家庭への適切な情報発信	学校運営や教育活動が保護者や地域に見える「開かれた学校」「信頼される学校」づくりの推進	●学校WEBページの更新、通信類の発行、メール発信を通して、学校の情報を保護者・地域に伝達する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上…A評価(4・5) 80～30%…B評価(3・2) 30%以下…C評価(1)	生徒用学校 アンケート CBT調査 保護者用学校 アンケート	年度末	○ 個人情報保護の観点大切にしながら情報発信を実施している。	A	保護者アンケートでは「学校は、子供のことについて適切に相談に応じてくれる。」が大勢(80.9%)を占めた。文化活動発表会などは、保護者開放を継続し交流は活発化。	A	アンケート結果から、学校が生徒に親身になって相談に応じていることが確認できた。学校と保護者の交流が活発化しており、今後もこの体制を継続して頂きたい。
			・授業参観、体育大会、文化活動発表会、オープンスクール、教育講演会、PTA活動など、保護者や地域の方が来校する機会を設け、開かれた学校にする。			年度末	◎ 前年度に引き続き、授業参観をオープンスクールに変えた。行事はすべて実施し、保護者交流も進んでいる。	A			

校長より (年度末) 予定された授業や行事を予定通りにすべて消化することができた。夏場において暑さ対策に苦労したが、大きな事故もなく生徒の健康を維持することができた。次年度以降も、暑さ対策を継続し、同時に感染症対策を徹底していきたい。

学校関係評価者から (年度末) ・学校群モデル校からスタートして3年経過するが、小中学校が密接に連携できていることが確認できた。今後も、校区内の小中学校が連携し、9年間を見通した学習環境の整備に努めて欲しい。